

令和6年度

仙台青葉学院短期大学  
自己点検・評価報告書

令和7年6月

目次

自己点検・評価報告書 .....	1
1. 自己点検・評価の基礎資料 .....	3
2. 自己点検・評価の組織と活動 .....	8
<b>【基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果】 .....</b>	<b>12</b>
[テーマ 基準Ⅰ-A 建学の精神] .....	12
[テーマ 基準Ⅰ-B 教育の効果] .....	18
[テーマ 基準Ⅰ-C 内部質保証] .....	19
<b>【基準Ⅱ 教育課程と学生支援】 .....</b>	<b>21</b>
[テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程] .....	21
[テーマ 基準Ⅱ-B 学生支援] .....	26
<b>【基準Ⅲ 教育資源と財的資源】 .....</b>	<b>27</b>
[テーマ 基準Ⅲ-A 人的資源] .....	27
[テーマ 基準Ⅲ-B 物的資源] .....	31
[テーマ 基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源] .....	32

## 仙台青葉学院短期大学

### 1. 自己点検・評価の基礎資料

#### (1) 学校法人及び短期大学の沿革

##### <学校法人の沿革>

昭和 55 年 4 月	東北初の総合ビジネス系の学校として、仙台スクールオブビジネス（現 仙台医療福祉専門学校）を創立 仙台市青葉区五橋に五橋校舎落成
昭和 56 年 3 月	宮城県より、学校法人格の取得及び専修学校の認可を受ける。
昭和 61 年 4 月	学校法人大原学園（東京都）と提携し、仙台大原簿記専門学校（現 仙台大原簿記情報公務員専門学校）を開校
平成 3 年 9 月	仙台市青葉区北目町に北目町校舎落成
平成 8 年 4 月	厚生大臣より理学療法士、作業療法士養成施設の指定を受け、仙台医療技術専門学校（理学療法学科・作業療法学科）を開校 仙台市太白区長町に長町校舎 A 棟及び B 棟落成
平成 8 年 7 月	仙台市青葉区中央に中央校舎本館落成
平成 13 年 1 月	仙台市青葉区中央に中央校舎 2 号館落成
平成 16 年 2 月	仙台市青葉区中央に中央校舎 3 号館落成
平成 16 年 10 月	仙台市青葉区中央に中央校舎 5 号館落成
平成 17 年 12 月	仙台市若林区五橋に五橋校舎 2 号館取得
平成 18 年 4 月	仙台市青葉区中央に中央校舎 3 号館 ANNEX 落成
平成 20 年 2 月	宮城県知事より認可を受け学校法人日本建設学園と合併し、東北理工専門学校（現 仙台工科専門学校）を設置校に加える。 宮城県黒川郡大和町の宮床校舎を継承
平成 21 年 4 月	文部科学大臣より学校法人組織変更認可、短期大学設置認可及び看護師学校の指定を受け、仙台市若林区五橋に仙台青葉学院短期大学を開学
平成 22 年 4 月	文部科学大臣及び宮城県知事より認可を受け、宗教法人陸奥国分寺より仙台デザイン専門学校の運営を引継ぎ、設置校に加える。 仙台市青葉区栗生に HOKUTO SPORTS SQUARE 落成
平成 23 年 2 月	仙台市太白区長町に長町校舎 C 棟落成
平成 25 年 3 月	仙台市若林区五橋に五橋キャンパス増築棟落成
平成 28 年 3 月	仙台医療技術専門学校を閉校
平成 29 年 3 月	仙台市太白区長町に長町校舎 B 棟を建替
令和 5 年 3 月	仙台市青葉区中央に中央校舎 7 号館落成
令和 6 年 4 月	文部科学大臣より大学設置認可及び看護師学校、理学療法士・作業療法士学校の指定を受け、仙台青葉学院大学を開学

仙台青葉学院短期大学

<短期大学の沿革>

平成 21 年 4 月	文部科学大臣より学校法人組織変更認可、短期大学設置認可及び看護師学校の指定を受け、仙台市若林区五橋に仙台青葉学院短期大学を開学 五橋キャンパスにキャリアデザイン学科（現 ビジネスキャリア学科）及び看護学科を開設
平成 25 年 4 月	文部科学大臣より学則変更認可及び理学療法士・作業療法士学校の指定を受け、長町キャンパスにリハビリテーション学科を開設 文部科学大臣より学科設置認可及び教職課程認定を、東北厚生局長より保育士養成施設指定を受け、五橋キャンパスにこども学科を開設
平成 26 年 4 月	文部科学大臣より学則変更認可及び歯科衛生士学校の指定を受け、中央キャンパスに歯科衛生学科を開設
平成 27 年 4 月	文部科学大臣より学科設置認可を、東北厚生局長より栄養士養成施設指定を受け、中央キャンパスに栄養学科を開設
平成 28 年 4 月	文部科学大臣より学則変更認可を受け、中央キャンパスに観光ビジネス学科を開設
平成 31 年 4 月	文部科学大臣より学科設置認可を受け、中央キャンパスに現代英語学科を開設
令和 3 年 4 月	文部科学大臣より学則変更認可及び言語聴覚士学校の指定を受け、中央キャンパスに言語聴覚学科を開設
令和 5 年 4 月	文部科学大臣より救急救命士学校の指定を受け、中央第 2 キャンパスに救急救命学科を開設 ビジネスキャリア学科及び観光ビジネス学科を中央第 2 キャンパスに移転
令和 6 年 4 月	仙台青葉学院短期大学 看護学科及びリハビリテーション学科を、仙台青葉学院大学 看護学部及びリハビリテーション学部に改組転換したため、仙台青葉学院短期大学 看護学科及びリハビリテーション学科の募集を停止

## 仙台青葉学院短期大学

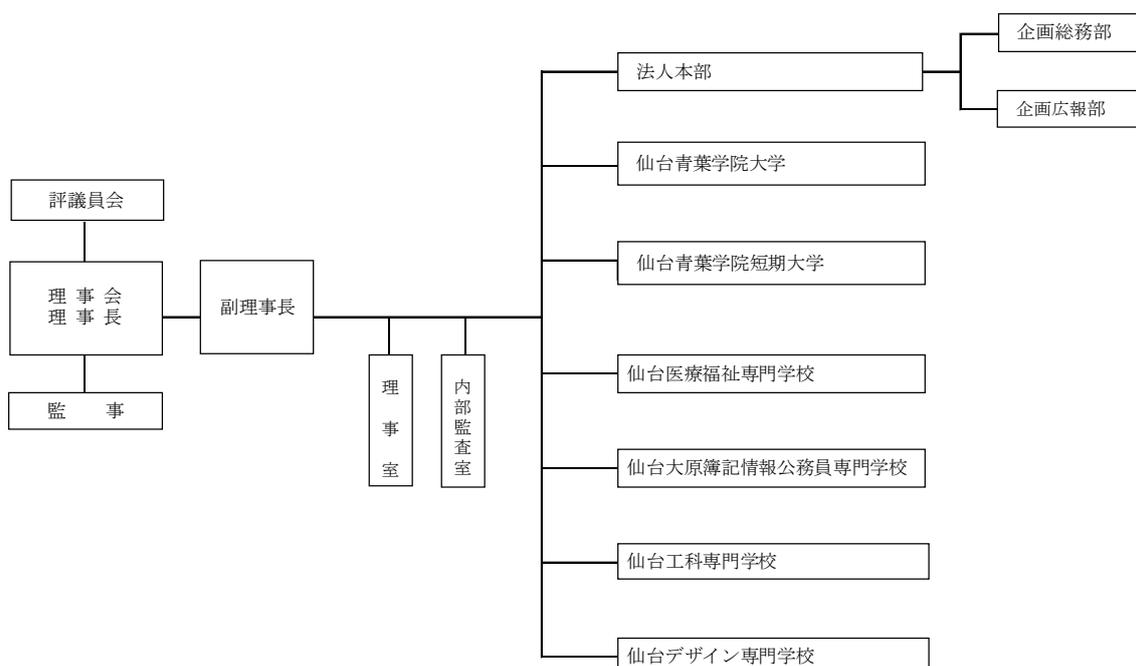
### (2) 学校法人の概要

- 学校法人が設置する全ての教育機関の名称、所在地、入学定員、収容定員及び在籍者数
- 令和7（2025）年5月1日現在

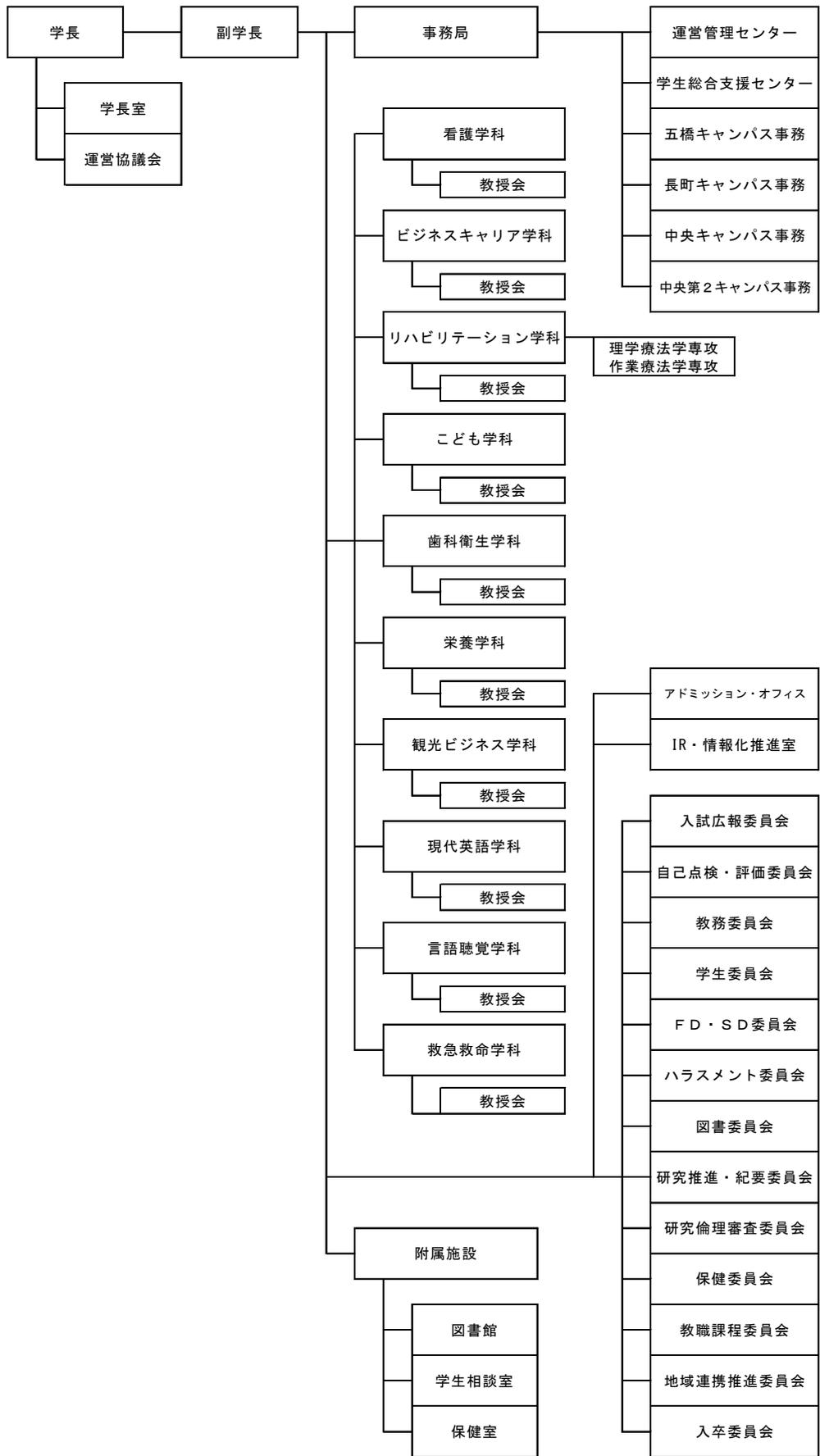
教育機関名	所在地	入学定員	収容定員	在籍者数
仙台青葉学院大学	仙台市若林区五橋3丁目 5番75号	190名	380名	396名
仙台青葉学院短期大学	仙台市若林区五橋3丁目 5番75号	565名	1,440名	1,264名
仙台医療福祉専門学校	仙台市青葉区中央4丁目 7番20号	290名	570名	411名
仙台大原簿記情報公務員 専門学校	仙台市青葉区中央4丁目 2番25号	365名	720名	574名
仙台工科専門学校	仙台市青葉区中央4丁目 7番20号	260名	420名	291名
仙台デザイン専門学校	仙台市青葉区五橋1丁目 7番18号	120名	240名	211名

### (3) 学校法人・短期大学の組織図

- 組織図
- 令和7（2025）年5月1日現在



■ 仙台青葉学院短期大学の組織図



■ 学生の入学動向：学生の出身地別人数及び割合（下表）

地域	令和2 (2020) 年度		令和3 (2021) 年度		令和4 (2022) 年度		令和5 (2023) 年度		令和6 (2024) 年度	
	人数 (人)	割合 (%)								
青森県	54	7.5	49	6.6	51	7.6	49	6.6	40	8.0
岩手県	49	6.8	61	8.2	61	9.1	64	8.6	43	8.7
宮城県	412	57.4	439	58.8	365	54.2	427	57.1	261	52.5
秋田県	48	6.7	52	7.0	49	7.3	49	6.6	36	7.2
山形県	63	8.8	52	7.0	59	8.8	76	10.2	57	11.5
福島県	72	10.1	80	10.7	71	10.5	67	9.0	42	8.5
その他	20	2.8	14	1.9	18	2.7	16	2.1	18	3.6
計	718	100.0	747	100.0	674	100.0	748	100.0	497	100.0

2. 自己点検・評価の組織と活動

■ 自己点検・評価委員会（担当者、構成員）

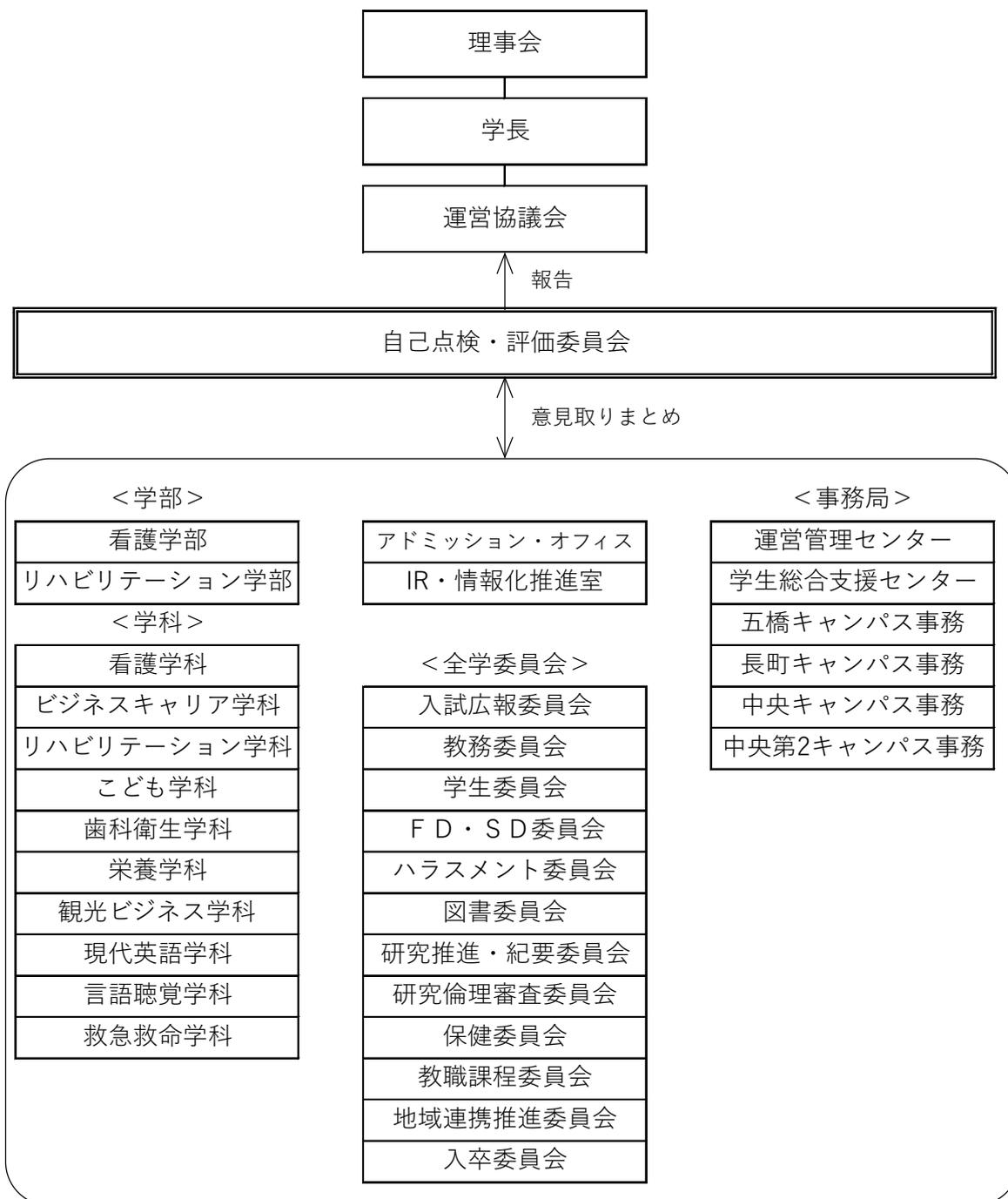
●令和6年度 仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学自己点検・評価委員会

	所属・役職等*	氏名
委員長	歯科衛生学科 教授・副学科長	伊藤 恵美
委員	看護学部 教授	佐藤 幸子
委員	ビジネスキャリア学科 助教	吉田 幸太郎
委員	こども学科 教授	堀之内 敏恵
委員	リハビリテーション学部 教授	外里 富佐江
委員	栄養学科 准教授	藤枝 弥生子
委員	観光ビジネス学科 教授・副学科長	松崎 陽子
委員	現代英語学科 准教授	相田 明子
委員	言語聴覚学科 助教	木村 有希
委員	救急救命学科 准教授	鈴木 宏俊
委員	事務局 事務局長	傳法谷 晃信
委員	学長室 室長	藤田 奈美子
陪席	副学長	瀬川 純
	事務局 運営管理センター センター長	小野松 香奈
	事務局 運営管理センター	千葉 瑞己

※令和7年3月31日現在

■ 自己点検・評価の組織図

＜令和6年度 本学における自己点検・評価の組織図＞



■ 組織が機能していることの記述

平成21年度から「仙台青葉学院短期大学 自己点検・評価委員会規程」を定め、教育、研究、社会貢献及び管理運営の各分野を範囲とし、水準の向上を図ることを目的として自己点検活動を行っている。令和6年4月に仙台青葉学院大学が開学し、仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学合同委員会として活動を行う。活動内容は、年度の初めに、理事会から提示される「学園目標」、学長から提示される「重点目標」「課題への取り組み」に基づき、年度の学内の点検・評価項目を確認している。5月～7月の期間に、自己点検・評価委員は一般財団法人大学・短期大学基準協会の第三者評価基準等の情報収集を行い、評価基準の確認を行っている。8月～11月にかけて、自己点検・評価に関する情報をまとめ、11月～12月にかけて、最終的な評価項目及び報告書作成のスケジュールを確定し、教職員に周知している。年に1度程度情報共有のための教職員対象の研修会を行っている。2月～3月にかけて、各担当部署から提出されたアセスメントプランに則り点検・評価された項目について報告書の原案をまとめ、自己点検・評価報告書を作成している。報告書は、運営協議会で承認された後、理事会の承認を経て、ホームページに公開される。報告書の内容は、次年度の「重点目標」「課題への取り組み」の作成に反映されPDCAサイクルを機能させ、大学・短期大学の改革・改善に生かせる仕組みになっている。

自己点検・評価の過程において、本学では、ステークホルダーからの意見も参考としている。一つは外部評価であり、もう一つは学生との意見交換会（通称、学長カフェ）である。大学・短期大学合同の外部評価を毎年度1回、同じく合同の学長カフェを毎年度2回開催している。外部評価及び学長カフェの意見は、運営協議会で報告し、共有を図っている。

■ 自己点検・評価報告書完成までの活動記録（令和6年度）

時期	内容
令和6年4月～	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学科、各委員会等において、年度目標に基づいて活動を行う。（それぞれの部署において日常的に自己点検・評価を実施する。）</li> <li>各種調査（新入生アンケート、卒業生アンケート、学修行動調査など）を実施し、分析、結果の公表を行う。</li> <li>学生と学長との意見交換会（学長カフェ）を行う（7月、12月）。</li> <li>令和6年度外部評価を実施する（1月）。</li> <li>教職員対象の研修会をオンライン（1月24日）で実施する。</li> </ul>
令和7年2月～3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学科、各委員会等からアセスメントプランに則り点検・評価された項目及び当該年度の活動報告、意見聴取を行う。</li> <li>「令和6年度自己点検・評価報告書（中間報告案）」を作成し、運営協議会にて審議を行い、学長が次年度の短大目標及び課題への取組みを策定する際に活用する。</li> </ul>
令和7年4月～6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>確定したデータ等を記入し、「令和6年度自己点検・評価報告書（案）」の最終取りまとめを行う。</li> <li>運営協議会及び理事会にて、「令和6年度自己点検・評価報告書（案）」承認を得る。</li> </ul>

令和7年6月	・「令和6年度自己点検・評価報告書」を本学ホームページにて公開する。
--------	------------------------------------

\*本報告書は、一般財団法人大学・短期大学基準協会が定める評価基準（基準Ⅰ～基準Ⅲ）に準じています。

【基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果】

[テーマ 基準Ⅰ-A 建学の精神]

<根拠資料>

1. 第8回仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学合同運営協会議事録
2. 第11回仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学合同運営協会議事録
3. 第15回仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学合同運営協会議事録 IR・情報化推進室報告「PROG 令和6年度1年生報告書」

[区分 基準Ⅰ-A-1 建学の精神を確立している。]

[区分 基準Ⅰ-A-2 高等教育機関として地域・社会に貢献している。]

- ・ 共通教養科目については、全学共通教養科目と学科独自の教養科目との配分や科目内容など継続して各学科で見直しを行い、特に全学共通教養科目の開講時期の統一については全学教務委員会で引き続き検討する。
- ・ (重点目標) 地域連携については、学科横断的なボランティア活動の取組みを強化し、地域連携推進委員会を中心に進める。事前にボランティアの情報収集を図り、年間ボランティア活動計画を作成し、学科横断的なボランティア活動を活性化させる。
- ・ (重点目標) 学修成果については、令和7年度から新たに導入するポータルサイトの機能を理解し、可視化を推進する。
- ・ PROGは学生のキャリア指導において活用することを主眼に、1年前期での在学中1回の実施とする。今後も客観的に比較できるアセスメントテストとして、全国の他大学との比較や経年比較で学生の状況把握に努めていく。

(「令和6年度課題への取組み」より)

<区分 基準Ⅰ-Aの現状>

共通教養科目については、令和7年度から4学科(こども学科、歯科衛生学科、栄養学科、言語聴覚学科)がICT関連の共通教養科目を開設し、全8学科が実施となる。(資料1)。また、既存の科目についてもカリキュラム改訂を行った。各学科の具体的な取組みは、下記のとおりである。

学科	取組み
看護学科	・ 令和6年度大学看護学部が開学したため、見直しは行わず。
ビジネスキャリア学科	・ 「数理・データサイエンス・AI教育」の科目開講については、既存科目「データサイエンス入門」において対応している。加えて、

	AI 教育に関しては「実践キャリア形成 I」の講義において「学生が生成 AI の利活用で留意すべきこと」を取り扱った。
リハビリテーション学科	・令和 6 年度大学リハビリテーション学部が開学したため、見直しは行わなかった。
こども学科	・全学共通教養科目「データサイエンス」の科目を新設し、「現代の社会」と「法律入門」を 1 単位とすること及びそれに伴い「情報処理 II」(1 単位)を教養科目に移行し教養科目の 1 単位減に対応することでカリキュラム改正をすることとした。(令和 7 年度より実施)
歯科衛生学科	・全学共通教養科目「数理リテラシー」の科目を新設し、「現代の社会」と「法律入門」をそれぞれ 1 単位とすることで、1 単位減に伴い、「保健統計学」の新設を行った。また、教育効果の向上を図るために、開講時期、授業回数、授業概要を精査し、カリキュラムの変更を行った。
栄養学科	・令和 6 年度においては、「数理リテラシー」の新設及び「法律入門」の単位数、授業回数変更の手続きを完了し、全学共通科目としての実施要件の統一化を図った。
観光ビジネス学科	・令和 4 年度から新カリキュラムに移行し、以降も順調に継続できている。改訂に際しては全学共通教養教育と学科独自の教養科目との配分や科目内容などの見直しを行った。
現代英語学科	・令和 6 年度から適用になったカリキュラムにより、学科の教育内容に沿った、より質の高い科目内容に修正されたカリキュラム配置を実施した。「人間と社会」の科目では、1 年後期に新設された「Critical Thinking」の中で、物事の良い点や悪い点を論理的に、「理由」や「根拠」のある説明に基づいて、意見や評価を述べる能力を育成している。また「人間と科学」の科目では 1 年後期に「数理リテラシー」を導入し、今後の社会に必要とされる数理的思考やデータ分析能力を修得するための科目とした。
言語聴覚学科	・令和 7 年度からのカリキュラム改正に向けて、令和 6 年度に検討を行った。新カリキュラムには ICT 関連の共通科目も配置した。
救急救命学科	令和 6 年度は完成年度前のため学科設置届出時のカリキュラムを遵守した。

地域連携については、令和 5 年度の課題「学科横断的なボランティア活動の啓発と実施」を受けて、地域連携推進委員会を中心に取組みが強化された。地域連携推進委員会及び各学科の取組みについては、下記のとおりである。

学科	取組み
地域連携推進委員会	1. 大学・短大公認ボランティア活動内容と業務認定の周知運営協議会において地域連携推進委員会が担当する公式ボラン

	<p>ティア活動4件（①楽天球団室、②仙台国際ハーフマラソン救護補助、③東北・みやぎ復興マラソン、④仙台青葉学院大学開学記念事業）の活動は業務として承認され、教職員に周知した。</p> <p>2. 公式ボランティア活動の登録システムの構築 令和6年度はTeamsを活用したボランティア登録システムを導入し、学生の取組みを加速させた。学生がアクセスし活動内容の情報が確認でき、参加したいボランティア活動に申し込みできるようなシステムを整えた。</p> <p>3. 公式ボランティア以外の活動 公式ボランティア以外の活動は、各学部学科で年間計画書を作成するなどして取り組み、活動した内容は学部学科から運営協議会で報告するなど、学部学科の独自活動の活性化を図った。</p> <p>4. 既存データのブラッシュアップ 令和4年度に調査した「教員個人のボランティア活動」及び学部学科の「こんなことができます」の令和6年度更新版を作成した。学部学科の横断的な活動が強化できるよう情報公開した(資料2)。</p> <p>5. 本学紹介及び地域貢献の外部向けパンフレット原案作成に着手 上記「4」を基に、外部向け広報PRのパンフレットの完成に向けて取り組んだ。</p> <p>6. ボランティアセンターの設置 独立したボランティアセンターの設置を提案した。</p>
<p>看護学科</p>	<p>学生参加型の地域活動・ボランティア活動を推進することを目標に、以下の活動を行った。</p> <p>1. 学科横断的活動</p> <p>1) 地域連携推進委員会主導</p> <p>①楽天野球団救護室ボランティア[Seiyo-USR]教員8名 学生16名参加 全13回(4月16日～10月5日の公式戦)※</p> <p>②東北・みやぎ復興マラソン[Seiyo-USR]教員2名 学生4名参加(11月3日)※</p> <p>2) 担当教員間連携</p> <p>①子育て支援教室(わかばのもり)[Seiyo-USR]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未就学児対象窒息解除・AED研修教職員4名 学生4名参加(6月9日)</li> <li>・せいよう祭出展教職員5名 学生12名参加(10月26日)※</li> <li>・幼児親子さんのための救命講習(11月8日)教員2名 参加者7名</li> <li>・仙台市子育てフェスタ&amp;健康フォーラム ブース出展 教員9名 学生5名(1月11日)※</li> </ul> <p>②仙台荒町子まもりプロジェクト教員5名 学生6名参加</p>

	<p>(10月30日) ※</p> <p>2. 看護学科独自</p> <p>①被災高齢者の交流支援 [Seiyo-USR] (3月15日予定) ※</p> <p>②若林区区民まつり 健康チェックコーナーボランティア 教員1名 学生3名参加 (10月20日)</p> <p>③せいよう祭での障害支援サービス事業所の授産品の販売 教員5名 学生6名 (10月26日)</p> <p>④お弁当ひだまり 教員5名 学生6名 前期4回 (7月3日、10日、17日、24日) 後期14回 (10月2日～1月15日)</p>
ビジネスキャリア学科	<p>1. ボランティア活動、地域活動との連携</p> <p>①学生のボランティア活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアサークル「絆」が、NPO アガイン東北と連携したフードドライブ活動を実施 (10月)</li> <li>・仙台市社会福祉協議会の交流会において活動発表 (2月)</li> <li>・東北復興マラソン学生39名 (11月3日)</li> </ul> <p>②ゼミ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大崎市農業団体と連携し「古川なす」のブランド普及の検討やせいよう祭での販売促進活動を実施</li> <li>・仙台市のユースチャレンジ! 事業「課題解決型ビジコン SENDAI アイディアソン」の事前指導に教員が参加した。(9月9日)</li> <li>・仙台味噌醤油組合の「仙台みそフェス2024」への参加</li> <li>・マイナビ仙台レディース及び公益財団法人仙台市市民文化事業団が募集した復興支援コンテストにエントリーし、ファイナリストに選定された。(8月23日) ※</li> </ul> <p>③授業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仙台クリスロード商店街の夏祭り参加(7月27日、28日)</li> <li>・子供ハロウィンに参加(10月26日)</li> <li>・インターンシップと地域企業研究では、おおさき産業推進機構と連携し、大崎市内の企業(アルプス・アルパイン、明治合成)・市役所訪問を実施し交流を図った。(7月10日)</li> </ul> <p>2. 地域イベントとの連携</p> <p>実践キャリア形成Iでは、現代企業論(必修)と連携し、実行委員会の協力の下、東北最大の商談会「ビジネスマッチ東北」(夢メッセ)を訪問し、東北地域で活躍する企業調査を行い、自身のキャリア形成のみならず、地元企業との交流を図った。(11月14日)</p>
リハビリテーション学科	<p>1. ウェルネスフェスタながまち(開学記念事業)(7月21日) ※</p> <p>2. 長町交流フェスタ(理学療法学専攻)(11月1日) ※</p>

	<p>3. 太白区民まつり 2024 (作業療法学専攻) を大学リハビリテーション学部の主たる地域連携活動として実施した。(10月20日) ※</p>
こども学科	<p>1. 地域連携推進委員会が中心となり全学で取り組んだ「東北・みやぎ復興マラソンボランティア」に参加した。(11月3日)</p> <p>2. 学科においては「休日の親子のあそび場づくり推進事業」(Seiyo-USR 採択)(7月6日、1月18日)及び「バディウォーク 2024in 仙台」へのボランティア協力事業を実施した(10月20日)。また、保育所や児童館等に関わるボランティア活動の情報発信を行い、学生の参加を支援した。</p>
歯科衛生学科	<p>1. 大和町健康まつり参加協力事業に参加し、歯科・口腔ケアに関するセミナー及び実践指導を行った。教員1名、学生4名参加 (Seiyo-USR 採択)(8月24日、25日、31日、9月1日) ※</p> <p>2. 仙台市「歯と口の健康週間市民のつどい」Web版参加(6月)</p>
栄養学科	<p>1. 令和6年度において仙台市主催の「みんなで子育てフェスタ &amp; 健康フォーラム」に栄養学科から教員2名、学生ボランティア5名が参加した(1月11日)。本活動は、従来から看護学科及びリハビリテーション学科により実施されてきたボランティア活動 (Seiyo-USR 採択) に、栄養学科が学科横断的に初参加したものである。</p>
観光ビジネス学科	<p>1. タイ・フェスティバルにおけるボランティア募集の告知を初年次ゼミで行った。</p>
現代英語学科	<p>実績なし。</p>
言語聴覚学科	<p>1. 宮城学院女子大学 キャリア支援 教員2名、学生1名(言語聴覚士のお仕事)(7月1日)</p> <p>2. 宮城県失語症者向け意思疎通支援者養成講習会 全8回(計40時間) 教員、学生参加(6月30日、7月21日、8月4日、18日、9月8日、29日、10月20日、11月24日)</p> <p>3. 第23回「みやぎ吃音のつどい」学生9名(10月20日)</p> <p>4. 失語症友の会 ひだまりの会 学生3名(12月22日)</p>
救急救命学科	<p>年間ボランティア活動計画書を作成し、学びを活かすフィールドとして救護補助活動ボランティアを推奨している。多くの学生が参加している。</p> <p>1. 仙台市消防局集団災害救急救助訓練 参加者25名(9月10日) ※</p> <p>2. 若林区総合防災訓練 参加者5名(9月21日) ※</p> <p>3. 若林区民まつり 参加者6名(10月20日) ※</p> <p>4. 青葉区民まつり 参加者5名(11月3日) ※</p>

※本学ホームページに公開

学修成果については、令和7年度に導入するユニバーサルパスポート（以下、UNIPA）の「学修ポートフォリオ」機能を活用することにより、可視化を推進する検討をIR・情報化推進室にて行った。本学のディプロマ・ポリシー五つの力を可視化したレーダーチャートを「学修ポートフォリオ」内で表示する方向で進める予定で、外部へのシステム活用のため予算化した。また、令和7年度に向けて、教員向けUNIPAの授業運営、操作方法に関わる研修会を実施した。

PROGについては、令和6年6月～7月にかけて全学部・学科1年生を対象にテストを実施した。後期開始時に学生向け解説会を、運営企業であるリアセックの講師による1コマで実施した。12月末に結果報告書をリアセックから収受し、3月の運営協議会にて報告した（資料3）。3年間の経年比較により、各学部学科の入学生のジェネリックスキルの状況を把握した。

PROGの各学科の活用については、下記のとおりである。

学科	取組み
看護学科	・大学開学に伴い、短大学生には該当なし。
ビジネスキャリア学科	・6月～7月にかけて1年生を対象にテストを実施した。後期オリエンテーションで学生向け解説会を、運営企業であるリアセックの講師による1コマで実施したが、学生の満足度も高く、キャリア支援につながった。結果報告は、1月のIR・情報化推進室定例会議で報告され、ビジネスキャリア学科分の状況を確認した。3年間の経年比較がなされており、現状の入学生のジェネリックスキルの推移を確認することができた。
リハビリテーション学科	・大学開学に伴い、短大学生には該当なし。
こども学科	・IR・情報化推進室の報告を受けて、リテラシーの向上について、学生自らの必要性に応じた知識の獲得ができるように、学生が主体となり企画立案し実践する授業を展開するような授業を進めている。特に基礎演習Iについて昨年度からの取組みを継続している。
歯科衛生学科	・1年生前期にPROGを実施し、後期に解説を行った。テストの結果については、学生指導や臨床実習で活用を行った。
栄養学科	・1年生前期において全員参加でのPROGを実施済み。
観光ビジネス学科	・1年生前期に受験するPROGとその説明会を通じて、学生各自に自らの持つ強みと改善すべき点を理解させる。また、教員はその結果を把握し、面談や日々の指導に生かしている。
現代英語学科	・在籍学生の受験率は100%であった。説明会を通じて、学生は自分の強みを知るとともに現状での課題を理解し、その後の学生生活に生かすこととしている。結果について教員間で共有し、学生指導や教科指導に活用している。
言語聴覚学科	・1年生前期に受験するPROGとその説明会を通じて、学生各自に

	自らの持つ強みと改善すべき点を理解させる。教員間でもその結果を把握し、学生の学修傾向をつかめるよう努めている。
救急救命学科	・入学時のジェネリックスキルを知り、学生の成長につなげる工夫に取り組んでいくべきとしている。他の大学比較などは就業年数等を考慮し、継続した検討課題と捉えている。

<テーマ 基準 I-A 建学の精神の課題>

令和7年度から4学科(こども学科、歯科衛生学科、栄養学科、言語聴覚学科)がICT関連の共通教養科目を開設し、全8学科が実施となる。令和7年度開講の4学科は、一定期間は学科内で新旧カリキュラムが並行していることによる間違いが起らないように確認をしていく。また、全学共通教養科目の開講時期の統一については課題が解消されておらず、引き続き検討が必要である。

地域連携については、ボランティア活動が活発化するにつれ、学内での連絡を円滑に行うためにも各学部学科から委員を選出することとした。また、活動を外部向けに発信することにより、今後外部からの問い合わせへの対応や、外部・学内との活動調整等の必要が高くなることが予想されるが、委員会では対応が困難であるため、外部向け窓口の設置についても検討が望まれる。

学修成果については、UNIPAの設定作業の所管や学生へどのように周知するのかが課題となる。

PROGについては、全学科1年生を対象に前期に実施する。学生のジェネリックスキルを知り、教員による学生指導を充実させる。

[テーマ 基準 I-B 教育の効果]

<根拠資料>

4. 令和6年度 第11回教務委員会議事録
5. 第14回仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学合同運営協議会議事録

[区分 基準 I-B-1 教育目的・目標を確立している。]

[区分 基準 I-B-2 学習成果(Student Learning Outcomes)を定めている。]

[区分 基準 I-B-3 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針(三つの方針)を一体的に策定し、公表している。

・(重点目標) 3つのポリシーについては、各学科での審議、全学教務委員会での審議、運営協議会での審議により、不断の見直しを図る。

「令和6年度課題への取組み」より

<区分 基準 I-B の現状>

3つのポリシーについて、各学科、全学教務委員会で審議(資料4)、運営協議会(資

料5)で報告された。

<テーマ 基準 I-B 教育の効果の課題>

見直し改善の検討の継続

[テーマ 基準 I-C 内部質保証]

<根拠資料>

6. 第8回教務委員会議事録

[区分 基準 I-C-1 自己点検・評価活動等の実施体制を確立し、内部質保証に取り組んでいる。]

[区分 基準 I-C-2 教育の質を保証している。]

・(重点目標) アセスメント・ポリシーについては、引き続き各学科で科目レベルでの査定を行い、授業改善につなげる。特に科目間のGPAの平準化について検討する。

「令和6年度課題への取組み」より

<区分 基準 I-C の現状>

アセスメント・ポリシーについては、学科レベルのアセスメント・ポリシーの再整備を行った(資料6)。各学科のアセスメント・ポリシーとGPAについての取組みは、下記のとおりである。

学科	取組み
看護学科	・令和7年度は3年生のみとなるため、実習が中心となる。学修行動調査の結果を基に授業改善に活かすこととした。 ・科目間のGPA平準化について、全学教務委員会で提案された。前期成績判定、後期成績判定、通算GPA判定結果で確認することとした。GPAの平準化の指針に向けて、上限者が指針より多い科目については、担当教員に相談することとした。
ビジネスキャリア学科	・学科教務委員会で議論を重ねた結果、令和6年度時点で取り組んでいる「卒業時の学修成果アンケート」「授業改善アンケート」「GPA」の3項目を指標として用いることに決定した。 ・GPAの平準化については、選択科目が多いという学科の特性及び相対評価が適さない科目もあり、一概に平準化を図るのは困難であることに鑑み、特に基準化は設けないこととした。
リハビリテーション学科	・令和7年度は3年生のみとなるため、新たなアセスメント・ポリシーの見直しを行わない。 ・GPAの平準化については、リハビリテーション学科合同教授会

	において検討した。前期成績判定、後期成績判定、通算 GPA 判定結果で確認することとした。
こども学科	・学科教務委員会において検討した。
歯科衛生学科	・学科教務委員会においてアセスメント・ポリシーについて検討した。その後、全学教務委員会にて報告した。GPA の平準化については、全科目の成績評価の偏りについて確認を行った。
栄養学科	・科目間の GPA の平準化について議論を進めるための準備として、各学年における科目間の現状の成績評価の偏り状況を確認した。
観光ビジネス学科	・年度ごとにアセスメント・ポリシーの見直しが必要か否か検討を行った。また、科目ごとに GPA に大きなばらつきがないか、外れ値がないかの確認を行い、GPA の平準化についても検討を行った。
現代英語学科	・学科の特性上、多くの専門科目が英語運用能力・コミュニケーション能力の育成・向上を目標としている。学科では卒業時の到達目標を CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）B1 程度の英語力（自立した言語使用者）と定めている。CEFR 対照表によると、B1 はおおそ実用英語技能検定（英検）2 級レベルとなり、学修成果の測定目安となる。令和 5 年度入学生は 48% が在学中に英検 2 級以上を取得（うち 1 名は準 1 級）している。 また、学科の特性として、英語基礎科目において「習熟度別クラス」を採っているが、成績評価の際には学年全体のバランスを測り、GPA に偏りが出ないように配慮している。
言語聴覚学科	・アセスメント・ポリシーについて見直しが必要か、検討を行うようにしている。科目によっては再試験受験者が多いものもあるため、科目間の GPA の平準化については今後検討を図る。
救急救命学科	・今年度完成年度のため、次年度より検討予定である。

<テーマ 基準 I -C 内部質保証の課題>

アセスメント・ポリシーについては、各学科で見直しが必要かの検討を年度ごとに行い、その後、全学教務委員会で学科の教育課程を実際に評価し、その妥当性について検討する。科目間の GPA の平準化については、令和 6 年度は、全学教務委員会で数値の目安を提示した（資料 6）。令和 7 年度は、学科の特性に応じ修正を行う。

<基準 I 建学の精神と教育の効果の改善状況・改善計画>

共通教養科目については、次年度末までに、新しく ICT 関連の共通科目を導入した学科の状況を確認する。また、全学共通教養科目の開講時期の統一の検討を引き続き行う。

地域連携については、学科横断的なボランティア活動の取組みの強化を進めるために、地域連携推進委員会も他の委員会同様に各学部学科から委員を選出することとし

た。また、外部との連携活動については、これから定着させる段階である。定期的にメンバーが変更される委員会では外部団体との信頼関係の構築が困難な面も多く、各学科の委員をある程度定着させ、機能強化を図る。

学修成果については、令和7年度から新たに導入するポータルサイト UNIPA の機能を教職員が熟知し活用していく。「学修ポートフォリオ」内で五つの力のレーダーチャートが表示されるよう、委託企業への契約と実行作業を進める。

PROG については、テスト終了後にできる限り迅速な報告に努め、学生指導への活用を充実させる。

三つのポリシーについては、確認作業を継続して行い、全学教務委員会の取りまとめ作業について、効率化できる部分があれば、改善していく。

アセスメント・ポリシーについては、運用しその適切性を各学科の科目レベルで査定し、授業改善につなげる。GPA の平準化については、年度ごとに各学科で GPA の内訳を視覚化し、偏りがあった場合にどの程度以上の偏りを是正すべきかなど、各学科と全学教務委員会にて検討を行い、学科の特性に応じて修正する。

## 【基準Ⅱ 教育課程と学生支援】

### [テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程]

#### <根拠資料>

7. 第8回仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学合同運営協議会議事録 IR・情報化推進室報告「2023年度学修行動調査 卒業年次生調査」
8. 第11回仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学合同運営協議会議事録 IR・情報化推進室報告「学修成果に関するデータの分析と総括及び各学科の対応」
9. 第11回仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学合同運営協議会議事録 IR・情報化推進室報告「卒業調査の結果について（令和3年度～令和6年度のまとめ）」
10. 第14回仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学合同運営協議会議事録 教務委員会報告「履修系統図等を用いた検証・検討報告」

[区分 基準Ⅱ-A-1 学科・専攻課程ごとの卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を明確に示している。] 定期的な点検を行っている。

[区分 基準Ⅱ-A-2 学科・専攻課程ごとの教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を明確に示している。]

[区分 基準Ⅱ-A-3 教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、幅広く深い教養を培うよう編成している。]

[区分 基準Ⅱ-A-4 教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、職業又は实际生活に必要な能力を育成するよう編成し、職業教育を実施している。]

[区分 基準Ⅱ-A-5 学科・専攻課程ごとの入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を明確に示している。

[区分 基準Ⅱ-A-6 短期大学及び学科・専攻課程の学習成果は明確である。]

[区分 基準Ⅱ-A-7 学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みをもっている。

[区分 基準Ⅱ-A-8 学生の卒業後評価への取り組みを行っている。]

<ul style="list-style-type: none"> <li>・（重点目標）IR室による学修行動調査、五つの力、卒業後アンケートについての分析結果に基づき、各学科で授業改善計画を明確にし、実施する。特に国家試験合格率あるいは資格取得率については、引き続き向上を目指す。</li> <li>・（重点目標）就職先アンケートの実施は、学生総合支援センターの負担が大きいため、実施方法を検討しながら継続を目指す。令和5年度就職先アンケートを実施した3学科は、アンケートを受けての授業内容改善を検討する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">「令和6年度課題への取り組み」より</p>
--

<区分 基準Ⅱ-Aの現状>

IR・情報化推進室による分析結果（学修行動調査、五つの力、卒業生アンケート）（資料7）に基づき、各学科の授業改善計画と実施について、各学科の取組みは、下記のとおりである。

学科	取組み
看護学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教授会では平均+標準偏差を基に、担当教員にGPをフィードバックし、授業改善につなげることについて検討した。</li> <li>・国家試験対策委員会では、各学年の目標を掲げ、ガイダンスや補講・模試の年間計画を立案している。特に最終学年の3年生は、年7回の模試・学内教員領域別補講・外部講師による補講を実施、模試の成績については、チューター教員と共有し、必要時個別面談を行っている。また、成績低迷者の保護者には学生の現状を伝え、支援の連携を図った。</li> <li>・令和6年度卒業生の国家試験合格率は、90.5%（全国新卒平均95.9%）であった。</li> </ul>
ビジネスキャリア学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IR室による学修行動調査・卒業生調査の結果に基づき、学科長が考察を行い、改善ポイントをまとめて運営協議会に提出した。学科教授会で調査報告は行っているが、具体的な施策の実施までには結びつけていない。</li> <li>・令和6年度10月実施の卒業生アンケートについては、1月の運営協議会でIR室からの報告がなされ、学科としての考察を2月中旬までに行った。</li> </ul>
リハビリテーション学科	<p>国家試験対策の取組み</p> <p>①国家試験の結果：</p>

	<p>令和6年度卒業生の国家試験合格率は、PT専攻100%（全国新卒平均95.2%）、OT専攻100%（全国新卒平均92.5%）であった。</p> <p>②国家試験対策スケジュール</p> <p>令和6年度の国家試験対策を1年から3年まで、両専攻ともに実施した。</p> <p>国家試験対策実施実績：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年PT・OT専攻：前期PT・OT合同：4月19日～7月19日実施。後期：PT専攻10月18日～12月13日、OT専攻10月22日～1月28日実施。1年次の国試対策授業では、アクティブラーニングとして、グループごとにマインドマップを用いた学修効果の検証を行った。</li> <li>・2年PTのみ：4月8日～7月8日、9月18日～11月16日実施。OT専攻は2年の国家試験対策は未実施</li> <li>・3年はPT・OT専攻ともに、4月4日から、国家試験対策科目の専門支持科目特別演習、専門展開特別演習を通年科目にて実施済み。また、3社の業者模試を計8回実施している。3年科目及び臨床実習科目以外の空き時間は、国家試験対策として実施した。</li> </ul> <p>③国試FDの実施：今年度は、両専攻100%を目指して、教員のための国試FDを行った。指定規則改訂後の国家試験問題の出題基準と傾向についての情報共有のため、10月11日に実施した。</p>
こども学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IR室による学修行動調査、五つの力、卒業生アンケートについての分析結果を学科で共有した。</li> </ul>
歯科衛生学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IR室による学修行動調査・卒業生調査の結果について学科で共有を行った。国家試験については、3年生前期から国家試験対策授業と3社の業者模擬試験を7回実施した。また、問題作成ソフトを導入し、国家試験に向けて1年生から始める国家試験対策のシステムを検討した。令和6年度卒業生の国家試験合格率は、97.2%（全国新卒平均94.3%）であった。</li> </ul>
栄養学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学修行動調査の結果分析によれば、入学後の学修効果及び入学後の主体的な学修効果に有意なポイント増加が認められた。この結果は、実習や実験授業におけるグループワーク主体のカリキュラム及び総合演習における校外実習報告（プレゼンテーション）などの効果の表れと言えることから、令和7年度についても引き続きそれらの効果が最大化されるように授業を推進することとした。また、修了年次における教職員のサポート利用についても有意なポイント増加が認められており、令和7年度においても担任制による個別面談等の接点を通して、学生の状況把握とサポートを継続することとした。</li> </ul>
観光ビジネス学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生にとって学びの実感がある授業とはどのようなものか、学</li> </ul>

科	修行動調査、卒業生アンケートの結果から検討を行っている。また、卒業生には在学中のどのような学びがキャリアの後押しとなったのか聞き取りを行っている。資格取得率の向上のため、過去問題の演習や課外指導なども継続的に実施した。
現代英語学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生アンケート（学科回収率 75.0%）から、学修成果「実践力」の修得、コミュニケーションや他者と協力をする能力の向上、プレゼンテーション力における大きな成果を読みとることができる。昨年度までは評価が低かった教養教育、専門教育分野での学びの成果に対する評価が向上している。これは、コロナ禍が終息し、学んだ英語力を生かすことができる就業を叶えた者が多いことが要因と考えられる。学科では、学修成果を可視化し、個人の到達目標を明瞭にするため、外部試験（TOEIC® L&amp;R）を利用した「到達度確認テスト」を実施している。令和 5 年度入学生は 2 年次修了時の最高スコア 795 点であった。航空や外資系ホテルといった英語力を生かす職場に採用が決まった学生は、学修意欲が継続し 2 年次にスコアを伸ばしていることが分かった。学科としては、学生が専門的な学びの成果を卒業後に生かすための取組みを引き続き強化し、授業改善や学生指導に生かしていきたい。</li> </ul>
言語聴覚学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科の国家試験対策として、3 年次に学科オリジナルドリルの実施や後期に月 1 回程度の模擬試験結果を受けてグループ編成し学修支援をした。また、成績が上がりづらい学生への一問一答などの対策を実施し、資格取得率向上に向けて各種対策を実施している。</li> <li>・他学年では、評価試験対策として放課後に勉強会の開催や各講義担当学生による試験範囲をまとめたドリルを作成し、実施した。令和 6 年度卒業生の国家試験合格率は、83.7%（全国新卒平均 87.5%）であった。</li> </ul>
救急救命学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新設学科につき分析できるデータがないが、他の学部学科のデータを参考にして学科の方向性を検討した。</li> <li>・令和 6 年度卒業生の国家試験合格率は、80.8%（全国新卒平均 94.7%）であった。</li> </ul>

令和 6 年度卒業生アンケート調査は、10 月 10 日～31 日に実施した。対象は、令和 6 年 3 月卒業生 9 学科 583 名（回答率 39.6%）である。学長から、本調査結果を受けた各学部、学科の振返りをもとに、今後の方策について説明、総括された（資料 8）。

国家試験対象学科では、各学年に国家試験対策を取り入れ、国家試験合格率の向上を目指している。

学修成果である五つの力とカリキュラムマップとの連結による客観的評価の実施と妥当性について各学科で検討を行い、全学教務委員会で報告した。カリキュラムツリーを DP と関連付けた履修系統図を各学科で検証・検討し、全学教務委員会で審議し、運営

協議会に報告され、次年度、全学教務委員会で継続審議とした（資料 10）。

令和 5 年度就職先アンケート結果を受けて実施した 2 学科の取組みは、下記のとおりである。

学科	アンケート結果を受けての取組み
看護学科	<p>令和 5 年 3 月に卒業した 83 名が所属する 45 施設に対して、WEB 上でのアンケート調査を実施（回収率 32.5%）し、教授会及び運営協議会で報告した。また HP にも掲載した。アンケートの結果については、質問項目全 26 項目の平均は 5 点中 3.4 点で昨年より 0.2 低かったが、他教育機関と同程度の評価と考えられた。16 項目は 3.5 以上であった。「倫理観」の 2 項目の評価が高く、逆に「論理的思考力」2 項目が低かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 5 年 3 月に卒業・就職した就職先に対して令和 6 年 5 月～6 月に実施した就職先アンケート結果では、「実践力」88.2%、「地域理解力」94.1%であった。対策としては、「実践力」を更なる向上のためにシミュレーション教育に力を入れていくほか、「地域理解力」の向上のため、日々の授業・演習において地域への関心を高め地域の問題について考える機会を設けていくこととした。</li> <li>・「文章表現力」が 94.1%であった。アンケート回答時の職場での診療・看護記録の記載などが増え「文章表現力」の大切さを痛感しているものと推察する。対策としては、引き続き、日々の授業でのレポート作成などを通して分かりやすい簡潔な文章作成を学ぶ機会多くしていくこととした。</li> </ul>
栄養学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の企業より世代間のコミュニケーションについての意見があり、その意見について検討した。その結果、原因としてその年に就職した学年の個性やコロナ禍による校外実習の中止等の影響が考えられた。今回のアンケートは令和 4 年度卒業の学年が調査対象であり、1 年生では遠隔、2 年生では対面を交えた授業形態の学年であった。なお、学科での審議結果を運営協議会で報告後、ホームページに公開されることを学科内で共有した。</li> </ul>

令和 7 年度短期大学 8 学科全体の入学定員充足率は 91.0%であった。また、こども学科と栄養学科は、令和 7 年度から共通テスト利用選抜を実施した。入試広報委員会と各学科は広報センターと連携を密にして、より効果的なオープンキャンパス及び学科広報について検討し、実施している。

<テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程の課題>

IR・情報化推進室提供の情報から PDCA を回し、教育の質向上のための改善を進めていく（資料 8）。

PROG 調査報告では、成長分析においてリテラシー総合が短期大学全体で低下しており、入学時のジェネリックスキルの状況を把握し、学生指導への活用を充実させる。

卒業生調査報告では、令和3年に比して令和6年は、教育分野「教養教育分野」は上位回答の割合は増えているが、「あまり活かされていない」の割合も増加した。専門教育分野は「活かされている」の回答が増え、上位回答の割合が増える結果となっている。教養教育分野の科目が具体的にイメージできていない可能性も考えられることから、令和7年度の学生便覧に『共通教養科目の意義』について掲載することとした。(資料9)。

学修行動調査報告では、「学修時間」に関しては負の有意差を示している学科が多い傾向にあった。卒業年次の学修時間が短くなる傾向があり、その要因として就職活動、実習等があると分析されていた。学生個々への指導及び教員間情報共有が重要と思われる。

就職先アンケートでは、アンケートの回収率の低下があるため、回収率を上げる工夫をする。

入学者選抜については、早期の入試区分で最大限の入学者を確保できるよう、令和8年度入学生対象に向けて、各選抜区分、総合型選抜受験資格、社会人選抜の回数等の見直しを進める。

#### [テーマ 基準Ⅱ-B 学生支援]

##### <根拠資料>

特になし。

[区分 基準Ⅱ-B-1 学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している。]

[区分 基準Ⅱ-B-2 学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている。]

[区分 基準Ⅱ-B-3 学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている。]

[区分 基準Ⅱ-B-4 進路支援を行っている。]

・Wi-Fi 環境調査で明らかになっている問題点について、原因を特定して対応する。また、Wi-Fi 環境にキャンパス間での差が出ることはないように学生からトラブル発生の報告があった際には、できる限り迅速に対応していく。

・LMS のより有効な活用については、IR・情報化推進室と協働して検討する。

「令和6年度課題への取り組み」より

##### <区分 基準Ⅱ-B の現状>

Wi-Fi 環境については、令和6年度も ICT トラブル調査を4月から実施し、令和7年3月まで継続実施した。特に中央キャンパスの問題が頻繁に報告されていたが、法人本部及びシステムロード社の対応により改善が進み、安定してきた。しかし、局所的に各キャンパスで問題が発生する事態は続いて起きている。今後もトラブルが発生した際には、速やかな対応が求められる。

令和7年度に導入される UNIPA の活用に向けて、2月18日に法人本部経由で JAST 社から講師を招き教員向け研修を開催した。令和7年4月に学部学科で行うオリエン

ーションで、分かりやすい利活用方法ができるよう、Teams でオリエンテーション担当者の情報共有の場を設定した。

＜テーマ 基準Ⅱ-B 学生支援の課題＞

IR・情報化推進室は、情報化を推進する役割に留まっており、具体的な対応は法人本部、システムロード社に頼らざるを得ない状況である。各学科の IR 委員と職員で機能を発揮できるよう検討する。

LMSのより有効な活用については、新たに導入したUNIPAを用いて、学生や学科運営、教育に関する情報共有を促し、教育改善に結び付けるほか、組織体制を強化する。

＜基準Ⅱ 教育課程と学生支援の改善状況・改善計画＞

PROG 調査報告による成長分析において、リテラシー総合が短期大学全体で低下したことについては、入学前教育を全学科で実施するとともに入学時にプレイスメントテストの実施を継続する。さらに、入学前に推薦図書を読む課題を設ける。また、読書へのきっかけ作りや読解力の改善を目的として、図書委員会主催の読書感想文コンクールを充実させる。

学修成果である五つの力とカリキュラムマップとの連結による客観的評価の実施と妥当性を年度ごとに各学科で検討し、全学教務委員会で報告する。カリキュラムツリーを DP と関連付けた履修系統図については、継続して検討していく。

卒業生アンケート調査結果を受けた今後の方策については、学長より引き続き改善に向けた対応について各学科に依頼された。

学修行動調査報告による「学修時間」については、学生個々への指導及び教員間情報共有が、重要と思われる。特に卒業年次の学修時間が短くなる傾向については、その要因として就職活動、実習等があると分析され、学修の重要性の指導と時間をうまく使って学修を行う方策を学生に教示する。

就職先アンケート調査報告で得られた結果を基に授業内容改善を推進する。

Wi-Fi 環境調査で明らかになっている問題点については、今後もトラブル発生時に速やかな対応ができるよう情報収集と改善に向けた連携を継続していく。

入学定員の確保については、近年の受験生の傾向として、より早い選抜制度での合格を目指す傾向が一層強くなっているため、オープンキャンパスも早い段階から各学科の魅力アピールしていく。また、本学の魅力の発信として Web メディアやソーシャルメディアのコンテンツを充実させ、情報発信を強化する。

【基準Ⅲ 教育資源と財的資源】

[テーマ 基準Ⅲ-A 人的資源]

＜根拠資料＞

特になし。

- [区分 基準Ⅲ-A-1 教育課程編成・実施の方針に基づいて教員組織を整備している。]
- [区分 基準Ⅲ-A-2 専任教員は、教育課程編成・実施の方針に基づいて教育研究活動を行っている。]
- [区分 基準Ⅲ-A-3 学生の学習成果の獲得が向上するよう事務組織を整備している。]
- [区分 基準Ⅲ-A-4 労働基準法等の労働関係法令を遵守し、人事・労務管理を適切に行っている。]

・(重点目標) 大学改革に対応し大学を取り巻く厳しい環境を乗り越えていくために、SD 及び教職協働を推進し、教育改善・業務改善や職員の育成に活かす。また、学生間の多様な交流を充実させる。

・新たな教務システム及びポータルサイトの導入に伴うスムーズな移行と有効性を高める。

・各種緊急時の全学生、教職員への容易で確実な連絡網の構築と全学的な危機管理体制を整備する。

・授業改善アンケートのオンライン化に伴う回収率が低下している。令和2年度から導入している LMS を利用した授業改善アンケート項目を精査する。また、回収率の低い学科の向上を目指す。

「令和6年度課題への取り組み」より

<区分 基準Ⅲ-A の現状>

SD 及び教職協働を推進し、教育改善・業務改善や職員の育成と学生間の多様な交流の充実についての各学科の取組みは、下記のとおりである。

学科	取組み
看護学科	・SD 及び教職協働の推進のため、FD・SD 委員会中心に研修会参加を促した。また、令和6年度から大学・短期大学合同の代議員会・教授会の体制となり、合同教授会では臨地実習指導等教育に支障なく、かつ、できるだけ多くの教員が参加できるよう日程を調整した。教員が全員参加する合同教授会では、教育改善に活かすため、学生や学科運営、教育に関する情報を共有した。学生委員会を中心に、学生間の交流促進のため合同体育祭開催の準備、当日の運営に対応した。
ビジネスキャリア学科	・教育の質を高め、改善するためには多くの問題・課題があることを認識しつつも、教員サイドからの働きかけや連携する場を捉える努力が少なく、十分な取組みを推進することはできなかった。
リハビリテーション学科	・SD 及び教職協働の推進のため、PT 専攻及び OT 専攻会議を週1回実施し、学生動向や各委員会報告など情報共有している。また、令和6年度から合同代議員会・教授会の体制となり全教員が参加できるよう第2水曜日の2コマ目に設定している。合同教授会では、教育改善に活かすため、学生関連や専攻・学科運営、教育に関す

	る情報を共有した。
こども学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習においては、保育・教職支援室と協働し学生の実習が修了できるよう支援している。就職においては、学生総合支援センターと協働し学生が希望する就職先への就職を支援している。公務員受験については仙台大原簿記情報公務員専門学校の教員の協力をいただいている。</li> </ul>
歯科衛生学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FD・SD 研修会への参加を促した。また、授業研究を学科内で開催し、授業の質の向上を目指し、教員間の意見交換を行った。歯科衛生学科では、毎朝、教員全員ミーティングを行っている。常に情報の共有が行える環境である。</li> <li>・学生間の交流では、医療系合同スポーツ大会に全員が最後まで参加し学生の満足度も高かった。また、学科独自の交流会も行った。</li> </ul>
栄養学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養学科における入学者減少への歯止めをかけるため、教職員が一丸となって取り組んでいく。特に入学希望者増へ向けた施策として、カリキュラム充実に向けた新規選択科目の立ち上げについて学科内で方向性を決定した。一方、在籍学生間の多様な交流の場として今年度、学生主導での2度にわたるスポーツ大会の実施などの成果を挙げることができた。</li> </ul>
観光ビジネス学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FD・SD 研修会への参加を促した。結果として、後日のビデオ視聴も含め、学内の研修会等への積極的な参加が見られた。また学科独自のFD研修会はシラバス作成業務に関して1回開催された。</li> <li>・学生間の交流としては、医療系以外の6学科（ビジネスキャリア学科、観光ビジネス学科、救急救命学科、栄養学科、こども学科、現代英語学科）の合同スポーツ大会を開催した。</li> </ul>
現代英語学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FD・SD 研修会に参加するよう、情報を共有した。</li> </ul> <p>キャンパス事務との情報共有に留意し、日々の授業や業務において協働しながら、教育の質を向上させるよう努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「海外研修」においては、英語の習得や国際感覚の育成に加え、学生たちはチームで行動することで学年の壁を越えた交流を図り、現地でのアクティビティやホームステイ経験に際して、互いに協力しながら目標を達成する機会となっている。</li> </ul>
言語聴覚学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種研修会に参加し、内容を教育・業務改善に活かしていた。他学科合同の運動会へ参加することに当たり、学年を越えた交流会を実施した。</li> <li>・学科主催の講演会を開催（5月10日、11月8日）し、学生の知識の向上に努めた。</li> </ul>
救急救命学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完成年度に向け、キャンパス事務との協働によりカリキュラムを厳守した。学科教務委員会には事務職員も会議に参加し情報の</li> </ul>

	<p>共有を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救急救命士として救護活動を目指す学生に対し、地域活動を通して学修効果の確認と自身が修得すべき力の認識・救護の連携活動の観察など、職業教育の視点からも実学教育を重視し実践した。また地域団体、住民、学生間との交流を図れるよう、令和6年度は四つの活動を行った。</li> <li>・「大学改革実行プラン」に、大学教育の質的転換のための取組みも掲げられ、地域との協働による学修機会と大学の繋がりが組み入れられていることから、教員が各団体と連携調整し地域貢献活動の年間計画を作成し、学生と教員が協働参加して実践した。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>①歩行者及びバスの乗員乗客の多数負傷者の集団災害救急救助訓練参加</li> <li>②大地震発生を想定し避難所開設、応急手当、搬送方法を市民に実演</li> <li>③区民ふるさと祭りで「まちの保健室」のブースを担当</li> <li>④区民まつりに参加し幅広い世代による交流の促進と地域の活性化に繋がるまつりの運営側として貢献</li> </ol>
--	--

新たな教務システム及びポータルサイトの導入については、新システムを扱う JAST 社及び、法人本部、関係部門と連携を図りながら、既存システムからのデータ移行等も含めた対応を行っている。短大は、令和6年度後期は試行的運用、令和7年度からは本格的移行となるため、教員向け、学生向けマニュアルの作成を進めている。令和6年度は、定期的に Web 説明会に参加し、短大教職員及び学生が混乱することのないよう、各自がシステムを試用、確認しながら、理解を深めた。年度末で人員が限られている中、旧システムから新システムへのデータ移行を図った。また、新システムのマニュアルを作成しながら新システムの理解を深め、業者の運用支援を受けながら、滞りなく新システムに適切に移行できるように努めた。

各種緊急時の連絡網の構築と全学的な危機管理体制の整備については、これまで LMS による「安否確認」を行っていたが、LMS ではプッシュ通知のような機能がなかったため、必ずしも確実な連絡網が構築されているとは言えない状態であった。新システムでは、プッシュ通知での連絡が可能となることから、令和7年4月移行後、緊急事態が発生したとしても、迅速に対応できるよう危機管理体制を構築することが可能である。

授業改善アンケートのオンライン化に伴う回収率の低下については、回収率の改善を目指し、前年度より回収率が上がるよう各学科、事務局が連携して取り組んだ。多くの学科において、前年度を上回る結果ではあったが、幾つかの学科においては下回る結果となっている。大学においては先行して UNIPA を導入し、UNIPA 上で授業改善アンケートを行っているが、短期大学の LMS 利用と比較して高い回答率を出している。短期大学においても令和7年度より UNIPA 上での授業改善アンケートを実施し、回答率の向上に繋げたい。

<テーマ 基準Ⅲ-A 人的資源の課題>

学生や学科運営、教育に関する情報共有を促し、教育改善に結び付ける。また、各種研修会に教職員が参加し、教育改善・業務改善に努めていく。

令和7年度より短期大学も UNIPA・GAKUEN システムへ本格移行するため、円滑な運用に努める。新システムを使用する部署の全教職員が、新システムを十分に理解し、操作できるように努める。

各種緊急時の連絡網の構築と全学的な危機管理体制の整備については、大学も含めた「安否確認」と教職員が危機管理体制を把握し、迅速な対応ができるよう周知する。4月のオリエンテーション時には「安否確認」の利用ができるよう、事務局が新システムでの緊急連絡網及び「安否確認」の仕組みを理解し、体制を整えるなど、緊急連絡が確実に届き閲覧出来るよう構築する必要がある。

授業改善アンケートのオンライン化に伴う回収率の低下については、次年度からは全学的に UNIPA での回答となるので、円滑な実施に繋がるよう調整を図る。

[テーマ 基準Ⅲ-B 物的資源]

<根拠資料>

11. 第9回 仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学合同運営協議会審議事項「R5年度仙台青葉学院短期大学 ICT活用促進計画（方針）案」

[区分 基準Ⅲ-B-1 教育課程編成・実施の方針に基づいて校地、校舎、施設設備、その他の物的資源を整備、活用している。]

[区分 基準Ⅲ-B-2 施設設備の維持管理を適切に行っている。]

・今後さらにICT化を進めるため、ICT環境の整備と技術支援・教育支援体制の整備を行う。そのための年度計画を策定し、各種施策について検討を継続し、実現を目指す。

「令和6年度課題への取り組み」より

<区分 基準Ⅲ-Bの現状>

令和6年度においては、令和5年度9月に策定した ICT活用促進計画（資料11）を基に活動を進めた。定期的な ICT関連のトラブル調査を実施しながら ICT環境の整備を進めた。特に、通信環境の整備面では問題が発生する場面が多く、改善に向けた情報共有を心掛けた。技術支援においては、8月～9月に「ネットワークトラブル対応研修」を行い、教職員の情報リテラシー向上を目指した。また、2月には新システムである UNIPA の教員向け研修を、法人本部と連携して企画する支援を行った。

令和6年度中には、ICT活用促進計画を改めて策定することはなかったが、今後もシステム活用による業務効率の向上やワンストップで対応する相談窓口対応など、情報化推進を進める必要がある。

<テーマ 基準Ⅲ-B 物的資源の課題>

新システムである UNIPA の利活用推進。活用の幅を広げる後押しを行い、業務効率の向上に資する。

[テーマ 基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源]

<根拠資料>

特になし。

- ・(重点目標) ICT セミナー(年2回開催の継続)を実施し、教職員の ICT リテラシー向上を目指す。また、新たな教務システム及びポータルサイトの導入も踏まえ、個人情報保護関連セミナーも併せて実施を検討する。ヘルプデスクの設置の実現を目指す。  
「令和6年度課題への取り組み」より

<区分 基準Ⅲ-C の現状>

ICT セミナーは年1回開催となった。上記8月～9月に「ネットワークトラブル対応研修」を行い、教職員の情報リテラシー向上を目指した。その他では、2月に新システムである UNIPA の教員向け研修を、法人本部経由で設定する支援を行った。

本格的な個人情報保護関連セミナーを今年度実施することはできなかったが、上記「ネットワークトラブル対応研修」などで多要素認証によるセキュリティ強化の有効性などをプログラム内容に盛り込んだ。UNIPA で、多くの学生個人情報を共有することが決定した。この対応に伴い、次年度は、個人情報保護関連セミナーを開催したい。

ヘルプデスクの設置も今年度の設置は叶わなかった。できる限り問い合わせ対応に応えられるような施策を次年度計画に盛り込みたい。

<テーマ 基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源の課題>

セキュリティ強化のための個人情報保護関連施策の検討

<テーマ 基準Ⅲ 教育資源と財的資源の改善状況・改善計画>

SD 及び教職協働を推進し、教育改善・業務改善や職員の育成については、教職協働による情報共有の場を定期的に設け、PDCA を回す場を設定する。

新たな教務システムについては、個々の情報や使用する部署間での情報を共有し、間違いがないよう、ダブル、トリプルチェックを徹底する。

緊急時については、全学的な危機管理体制の整備を行う。今後、教職員がシステムのマニュアルを用いて研修会と定期的な訓練を実施する。さらに、実際にシステムを利用し、在学生に対しての連絡網を構築する。新システムに移行後、新入生はオリエンテーション時に学科教員と学生で連絡網を整備、確認する。

授業改善アンケートの回収については、令和6年度中に UNIPA での授業改善アンケートマニュアルを作成する。

ICT 環境の整備と技術支援・教育支援体制の整備については、学修ポートフォリオの活用促進を図る。

教職員の ICT リテラシーの向上については、個人情報保護セミナーの開催と多要素認証（MFA）システムの導入を検討する。UNIPA 関連の教員向けマニュアル AI サーチ及び学生向け LINE ポットを作成する。

ICT 関連のトラブル発生時に機動的に対応可能な専任職員の配置やヘルプデスクの設置の実現に引き続き取り組む。